

No. 85

公民館だより

平成3年12月
宮津市字由良
由良の里センター内
由良地区公民館

ヒューマニズム

館長 小室 哲 寛

私達の住む郷土を豊かな住みよい町とするというためには、私達をとりまく現代の世相の中にあつては、先づ個々人が自らを良識ある社会人たらしめようとする努力が肝要である。

その良識ある社会人の意味するもの、又その基本ともいふべき社会道徳について先の号にてふれて来たのであるが、それでは良識ある社会人となるについて、具体的にはどのような資質が重要なのかを考えて見ることにしたい。
この資質を挙げるについては

人によって種々あると思われるが、私としては「ヒューマニズムに富む人」を第一番にあげてここで取り上げて見たい。

ヒューマニズムとは人間性、人類性、人道、さらには人間味といった意味、内容をもった言葉から出ているが、これをしいて訳せば人間性尊重、人間主義、人道主義とある。しかしこの語のもっている複雑微妙なニュアンスを生かすため、表題を漢字にあてはめずそのまま、ヒューマニズムとすることが適当と思うのでご了承をお願いしたい。

ヒューマニズムとはとりも直さず人間性尊重の精神である。

このヒューマニズムは古代にも現代にも、西洋にも東洋にも存在したものであるが、歴史的にその意味するものが少しづつ異なりそれぞれの時代の特色がある。

古代ローマ時代は、人が高貴な意味における人間であるためには、古代ギリシャ的教養を身につけることが必要であるとして、ローマ人の生活の理想を求めた。そこではヒューマニズムは

文化的教養の意味をもっていた。十五世紀、ルネッサンス時代のヒューマニズムは、人間の再生と人間性の再興を目指すものであり、人間性の歪曲と否定に對して、人間をそこから解放して、人間らしい人間にしようとする思想であった。

十九世紀に入ると、人間尊重と博愛主義のヒューマニズムが特色である。この特色こそが現代にあつても人の心に強く訴える理由なのである。

又東洋においても古代中国の儒家の仁の精神もヒューマニズム思想にはかならないのであり、我が国の儒教の精神もこれを受けているのである。

これ等のヒューマニズムの根底にあるものは、今も昔も変わらない人間の生命と、人間の尊厳性を尊重し、人間の教養と創造性を発展させて、いっそう高いものにしよとする精神なのである。

更に百科事典によれば、人間を真に人間らしいものにしていくものは、人間固有の理性、自由、博愛、幸福の追求、更に人間的情意、欲求などを含めた人間性全体の調和的發展を求め人間本来の高貴な本性である。

又人間の長い歴史の中で創造されて来た芸術、道徳、宗教、科学などをこの上もなく貴重なものとして尊重しているのは、その精神の創造的表現であるからである。

それら人間の尊厳性をゆがめ抑圧しようとする圧力から守り、

擁護し、そしてそれ等を正しく発展実現させようと努力し主張する立場が、すなわちヒューマニズムであるとしている。

ヒューマニズムには多数の類型があるが、人格的ヒューマニストのトルストイであるとか、無抵抗主義のガンジー。「生への畏敬」の人間愛のシュバイツァー等々の代表的な偉大な思想に対しては何人も尊敬の念を抱かずには居られないものがある。

現代の民主主義の根本をなす人間の尊厳と個人の尊重も又、ヒューマニズムのあらわれにはかならない。したがってヒューマニズムこそは現代の社会の秩序を維持するバックボーンなのである。その故にこそ、これに反する言動には手きびしい批判が向けられるのである。

最近豊中の中学校で「いじめ」がエスカレートして集団暴行により中三の一女生徒の尊い命が奪われた事件が起こった。実に痛ましい限りであり、生徒も学

校も社会全体も、人間の生命の尊厳を厳粛に受けとめ、二度とこの様なことの起きないよう覚悟を新たにしなければならぬのである。

私は更にいじめに対して暗澹たる念を抱かずには居られない。それはいじめが近隣の学校まで蔓延して来ていると聞くからである。

いじめが何故起るのか。なぜ勇気をもって止められないのか。学校も親も真剣になって考えなければならぬ。級友に心を傷つけられ、いじめの暴行を受け、登校までも恐れる生徒を救わなければならぬ。これこそヒューマニズムの欠如であり、深刻な社会問題である。育友会も学校もこのいじめの解消の為、協力してとり組み、社会ももっと問題視して考えねばならない。

学校においても、家庭においても、いじめのもつ人間性尊重の精神の欠如の重大な意味を子供に徹底的に教え指導し、これ

は、いじめられる子供の立場に立って、自分を置きかえて考えさせることが、何より重要な解決策の原点であることを銘すべきである。生徒も学校も親も一緒に、社会全体で充分研鑽すべき問題であると思うのである。

ところで日常の我々の社会生活の中で、ヒューマニズムという尺度を当て、人間の事象を見てもみると、これに反対の方向の言動が数限りなく存在していることに気づくのである。大きな人間性尊重の欠如も、根底には自分の日頃の言動の些細なはずれを自覚しないことから始まっていると思われるのである。

例えば、他人の心を傷つける言葉で言い争ったり、他人の幸せを嫉んだり、人のプライバシーを侵したり、自分の身勝手なことばかり主張したり、不躺な言動を平気で行ったり等々数限りなく見聞きされる。これ等は、他人への思いやりに欠けたり、自分の人間本来の良心とか礼節

心に恥じるといふ理性が稀薄なためであり、ヒューマニズムにはまだ遠いことを自覚しなければならぬと思うものである。

もっと博く人を愛し、もっと自分を高め、人達と共に自分も幸せな人生を送りたいと希う心がヒューマニズムへの指向であると思うのである。

最近の文学書出版の静かなブームは、文学を通して描かれているヒューマニズムを理解しようとする意欲の人が増えたということを意味している。

この様に我々も社会人として皆が、ヒューマニズムについて考え、理解し、自身の人格の中にとり入れ、それを実践していくことが大切である。

心の豊かさを求めるため、より文学を好み、より芸術を理解し、お互いの人間性を尊重し合いい、自分も人間味溢れる人となるよう努力していくことが、ヒューマニティに富む人と言えると思うこの頃である。

行事報告

主事 山下清一

◎夏期球技大会(八月十四日)

夏期恒例の四部対抗球技大会が、地区の精鋭を一堂に結集し盛大に開催されました。炎熱のもと、フラインプレー、迷プレーと力のこもった熱戦が展開されました。

一般ソフトボールの部では、三部が地力を発揮し順当に勝ち進み連続優勝を遂げました。

優勝戦

三部 10102000114
二部 0100000011
三部の連勝を阻止するのは?

青年野球は戦前の予想を覆し、二部が、闘志と巧みな試合運び、そして団結の力を発揮し、食い下がる三部を振り切り久し振りに優勝の栄冠を勝ち取りました。

優勝戦

三部 200011114
二部 03011A115

世代交替期が感じられます。

◎盆おどり大会(八月十四日)

浴衣姿でにぎやかに宮津おどり振興会の皆様や娘さん、帰省中の母子、浴客の方々のおどりの輪が、はやし櫓の灯に映え、お盆の夜を彩り里センターの庭がにぎわうひとときでした。

程よい汗、心なしか和むころ、お盆の気に接した気分でした。(参加者約二百人)

◎由良地区運動会(九月一日)

二年に一度の由良地区運動会が、快晴に恵まれた九月一日、由良小グラウンドで盛大に挙行されました。選手も応援の皆様も一体となり和気藹々、かけっこ

やボラつり、綱引きやマラソンに笑顔でフェアーに、一生懸命、運動会を大いにエンジョイして下さり地区運動会の意義を高めていただきました。

総合優勝

三部 四部対抗リレー優勝 四部

総合優勝は勝運に恵まれた三部が連続して優勝の栄冠を手にしました。四部対抗リレーは、幸運にも逆転し連勝を飾りました。

大会を盛り上げて下さった大会役員を始め地区の皆様には厚くお礼申し上げます。

◎文化祭(十月二十七日)

小雨模様で人が心配されましたが、大勢の皆様がご来場下さり盛会裏に文化祭を終了することが出来ました。

プロにも劣らない写真、趣味の域を超えた絵画・彫刻そして磨き上げられた古木のオブジェや園児小学生の力作が会場を賑わしました。生花の華やかで誇らしくそして慎ましい伝統美、

茶席の和やいだ雰囲気……。開催時機の都合で菊はなく淋しく感じましたが、丹精の盆栽・樺の紅葉が見事で印象的でした。

地区の身近な方々が、趣味を持たれ日々丹精こめられた成果を、またかくれた才能を発揮された作品を拝見し、羨望の念をいだくと共に深く敬意を表し今後益々精進下さるよう期待する次第です。婦人会の余剰野菜・うどん・ぜんざいの人気も上々で終日賑わいました。

貴重な作品を出品下さった方々、サークルの皆様を始め、文化祭成功のために献身協力下さいました皆様には厚くお礼申し上げます。

気安らに招かれ和む茶席かな
清海人

◎第二十一回宮津市民駅伝競走大会(十一月三日)

由良クラブ連続優勝!!
快晴の十一月三日、市役所前を起終点とし、栗田半島を一周する六区間、二十・五キロメー

トルのコースで争う駅伝競走が、一般十チーム、学生チームが参加し栗田半島路に熱戦を展開しました。由良クラブの選手は各区间で力走し、2、4、5、6区で区間賞を受賞するすさまじさで、他チームの追従を許さず連続優勝の栄に輝きました。

一般の部

優勝 由良クラブ

二位 宮津与謝消防署

三位 上宮津体協

学生の部

優勝 宮津高等学校

二位 橋立中学校A

三位 宮津中学校A

大会に向けての練習とチームワークで、終ってみれば下馬評通りの楽勝でした。(更に精進を重ねたいと思います。選手一同)

◎第三回宮津市地区対抗

駅伝競走大会

十一月十日午前十一時、駅伝日和の冷気をつけて、由良から日ヶ谷から、十五区間四十二軒

百九十五米に、十三地区から百九十五名の選手が栄冠目指し健脚を競い熱戦を展開しました。

我が由良地区チームも要所に経験豊かなベテランを配し、小中高の逸材を揃えてレースに挑みました。一本のたすきに願いをこめて、力走また力走。

惜しくも優勝こそ逃しましたが、堂々総合第二位を勝ちとり表彰壇上高らかに由良地区スポーツの意気を高めることが出来ました。

総合優勝 栗田地区

第二位 由良地区

第三位 宮津地区東部

選手の皆様ご苦労さまでした。健闘を称えると共に今後の精進を大いに期待します。

後になりましたが今大会に温かいご理解とご協力下さった選手のご家族の皆様、自治会長を始め役員各位、声援下さった地区の皆様にお礼申し上げます。

地区運動会に参加して

岸 田 弥 生

恒例の由良地区運動会が、九月一日、好天に恵まれ、三十一種目の競技にて、楽しくにぎやかに行なわれました。

子供達の軽やかな力走に始まり、息もびつたりハッスルプレーの団体競技、大粒の汗をかき体力の限りをつくされたマラソン。力を競い合った綱引き。

そして、新しい競技等もふえ、どの種目においても、皆さん、楽しんで生き生きと参加されていたように思います。応援にも気合が入り、盛んな声援が飛びかかっておりました。

又、その緊迫感の中、楽しい企画が催されたのが、美人コンテストでした。各地区の自治会長さん方の女装への見事な変貌ぶりには、子供から大人まで目

を楽しませていただきました。脇、宮本地区のちびまる子ちゃん姿には、かわいーと子供達も大喜び、麦畑から出て来ました、およねと松つつあんの名コンビ浜野路地区。高齢社会に頑張ります、まだまだ長生きしますよと港、石浦地区。どれも地区挙げてのすばらしい出来栄でした。

このような、子供から年配の人まで参加できる区民運動会は体力作りの啓蒙だけでなく、地区民の力強い連帯感作りの最高の行事だと思えます。役員の方々には、大会運営にむけての準備には、大変ご苦労なことだと思いますが、いつまでも続いて欲しい行事だと思います。

盆踊り大会

藤井陽子

「盆踊りに思う事を何か書いてもらえないか」との事、踊りは好きですが、どうも物書く事は……断りきれずにペンを取る事にしました。

今年は何年にもない賑わいを見せました。それもそのはず、市教委よりビデオ撮りの依頼があり、次第に沢山の方々の呼びかけと相成りました。八月十四日盆の真最中、どこか家庭においても女手の必要な時間帯だ。里帰りの家族、お客様のご接待、仏先祖供養、等々、本当に目まぐるしい忙しさでしょう。そんな多忙の中、押して参加して下さったのには、何より伝統ある由良の踊りをやはり残して下さると言う市教委からの申し出を、皆様は大事に思われたのに違いあ

りません。年に一度の盆踊り、何もかも忘れて、心ゆくまで踊るのも健康への原点の様な風にも思えます。

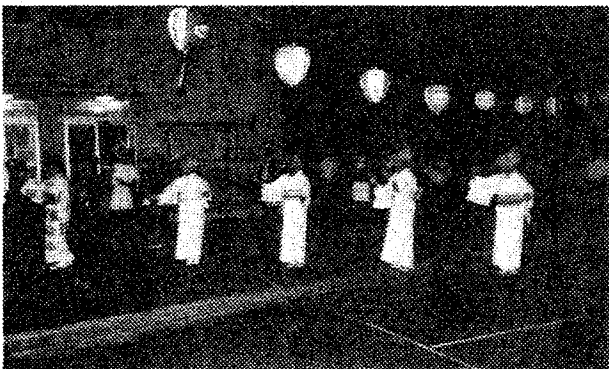
折角、役員の方々の努力の元で櫓が組まれ、提灯が飾られ、すっかり舞台装置が出来上がっているのに、肝心要の踊り手が、観客が少ないのでは、あまりにも淋しすぎます。参加するだけでも意義のある事ではないでしょうか。村中の人々が、少なくとも久しくお目にかかれない人達とか、友達、親類、等々、顔を合せる場所、出合いがありふれあいがあり踊りの輪が少しづつ広がって、村の輪と成り栄えてゆく。この様に思うのは、私個人的な独りよがりでしょうか。今年は何年にもない賑わいを見せました。それもそのはず、市教委よりビデオ撮りの依頼があり、次第に沢山の方々の呼びかけと相成りました。八月十四日盆の真最中、どこか家庭においても女手の必要な時間帯だ。里帰りの家族、お客様のご接待、仏先祖供養、等々、本当に目まぐるしい忙しさでしょう。そんな多忙の中、押して参加して下さったのには、何より伝統ある由良の踊りをやはり残して下さると言う市教委からの申し出を、皆様は大事に思われたのに違いあ



明日の宮津総踊り大会に出席せざるをえなくなり由良の盆踊りで予行練習だと言い参加してくれました。動機は何んであれ踊りが苦手な主人ですが、その場の雰囲気ですら自然に解けこみ結構楽しんでる様は、気恥ずかしさが和む思いがしました。男性群の参加が少ない中、貴重な存在でもあります。

近頃では良く地域の活性化、村起しが叫ばれている今日、せめてお盆の一夜を大いに華やか

に、盛大な時にしてゆきたいものです。そして伝統ある村の踊りを、諸先輩方々の指導により正しい踊りの所作を、知らない若い人達にも、私達にも、教えて頂きたい。皆で輪になって踊りましょう。せめて今年の様に活気ある盆踊りを、心から期待したいものです。そして村の輪になってゆく様に願ってやみません。



“文化祭”に慣れ親しんで……

婦人会 々員

公民館行事の中の最大イベント「文化祭」。

そこに婦人会も協賛し、うど

ん・ぜんざいをメインに、余剰野菜・海産物のバザーにて、賑々しく花を添えている。このことは、今では当然の有り様、由良区民の中に「楽しい行事」として、しっかりと育まれてきている様子が、その盛況振りにあらわれている。

おいしいうどんを……甘いぜんざいを……と、何しろ慣れなところの、にわか売子に、ウェイトレスと厨房係、ラッシュユ時のお客様には、さぞかしご迷惑をお掛けしたのではないかと反省を含めながらも、その忙しきは無性に楽しく、疲れもふっ飛ば満足感を味わったことでした。

ご協力いただいた全ての皆さんに、心からお礼を言わせていただきます。婦人会です。

「バザー会場」の一段落で、新しい出品者を期待しつつ、「作品展示会場」をひとまわりする。この催しを毎年楽しみにしている私は、優秀な観賞者のひとりではないかと、自負しながらも無能なばかりに、出品者側にまわれないのが口惜しい。華やかに花を添えて「活け花」のコーナー。

自然の縮図とでも言うのだからか、古色蒼然たる作品がもともお気に入りのも、洋花と技巧的素材で簡潔にまとめられた作品が、妙に花器と調和し、媚を売るその健気さ……嬉しいコーナーである。

小学生の作品、その奔放さは勿論のこと、私等の子供時代にはなかった新しい技法の表現方法の絵などに出会うと、嫉妬すら覚え足が止まる。

宮本さん御夫妻の油絵も、毎年観せていたぐくのが楽しみである。老後はこうありたい!と思わせて……。

私の最も好きな、写真展示コーナー。

由良神社の大祭で太鼓打ちに興じる大人と子供。ドンドコ! ドンドコ!音が弾け飛び、その躍動が身に突き刺さらんばかりだったあの写真。ずっと前に出合った作品なのに、「ピカソの素描展」を思い起した感動が、今も、しっかりと脳裏にある。

寺の境内に、柔和にはほえまれた地藏さまが一体、そこに落葉が……ロマン漂うあの作品もまた、忘れられない。

作者がその被写体に惚れなければ、こうした作品は生まれなないのだという感慨を覚えてから

は、作品の前で対話出来る程に成長し(??)、四方先生の密かなファンである(ご迷惑だろうけれど)。

「茶道」の作法を知らない私は、「お点前」のあざやかさを評することは出来ないけれど、皆さんの着物姿で眼の保養をさせていたぐき、上等のお菓子と薄茶で、そこつ者をもてなしていたぐくひとときは、雅びの瞬時を垣間みる思いで、まさに一服の清涼剤である。

是非に、続けていただきたい「文化祭」なので関係者の方たちへ、私なりの意思表示をしたく、「ひとつの声」と、させて下さい。実に、楽しい一日でした。



第三回宮津市地区対抗駅伝競走

駅伝

小山良

学校の帰り公民館の主事さん

から、十一月十日の駅伝に出て下さいと手紙をもらいました。

手紙をもらった頃は、その時から、がんばらなあかなあと思いました。それからぼくは、

夜、駅伝の練習に参加しました。

津田のおっちゃんや、いそ田のおっちゃんに、タイムをはかってもらったり、走り方を教えてもらったりしました。そのおかげでだいぶ速くなりました。し

そうをして、ちょっとタイムがおそかったけど本番は、がんばって上位になろうと、思いました。

それに練習を加えて、当日を待ちました。いよいよ今日は、駅伝の大会です。ぼくは、すごく

きんちようしていました。アップをして体操をして、グラウンド

をかるく、走りました。

「集まれー」

と、コールがかかりました。あと三十分でスタートです。時間は、早くたって、五分前になりました。十秒前、高鳴るむねを

おさえ、スタートの合図と、ともに、走り出しました。グラウンドでは、五位でした。道に出ると三位になりました。ぼくは、

みんながおうえんをしてくれたのでがんばって走りました。わすれなぐさの所で、ラストス

パートをかけて、二位になりました。走り終わった後は、ものすごくえらかかったです。けど上位にはいれて、とつてもうれしかったです。バスに乗って、宮

津の体育館に行きました。まだ人は、たくさんいませんでした。

けいじばんをみると、トップと六秒ちがいでした。そして、だんだん人がおおくなってきたかと思うと、トップがかえってきました。くんだでした。その次

に由良でした。そうこうでは、二位だったので、銀メダルをもらいました。とてもうれしかったです。がんばった練習のかがありました。

練習のせい

六年 岡田 多恵子

「六番用意。」

と、言われた。私は、ドキッときました。ぬかれたくなかったし、区間賞をねらっていたからです。行く所々、だれもがはくしゅをしてくれた。

「ゴール。」

いつもより調子がとてもよかったです。走り終わったら、とつてもいい気持ちです。それこれもみんなのおかげです。練習の日は、だいたい行っていた。

「ヨーイ、スタート。」

と、なんどもなんどもはかかっていました。二km走る日は、みんな、速い人ばかり、ついて行くのがやつとでした。いつも「ハッハッハッ。」

だるくなる時もありました。みんな、がんばっていたので、まけず、走っていた。いそ田さんは、いろいろと走り方を、教えてくださいました。

「とにかく、えらなったら手をふらなあかん。」

と言ってくれました。そんなことを、聞いて練習しました。

そういう練習をして駅伝の日を、めざしてがんばっていきましょう。補欠の人たち、選手の人たちと、いっしょけんめいとりくんんだり、協力してきて、総合

感想

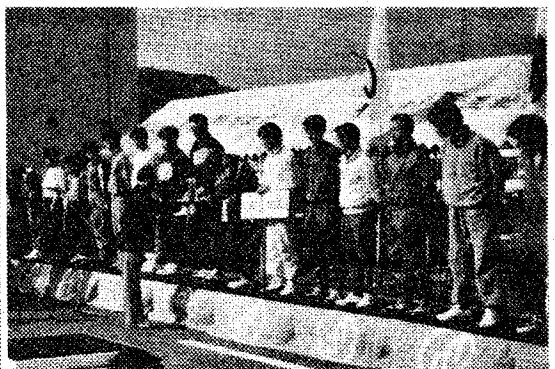
今年は、昨年とちがって正選手だったのでとても、緊張しました。練習では、いつも三キロ走っていました。初めは、毎日練習していました。でもいつもえらいので一日おきになりました。これだけ走ったんだから、ちよっとくらいは、速くなっただろうと思っていました。でも実際には、よくわかりませんでした。

二位に、やっとなれたと思います。そして、カップ、賞状がもらえたのです。みんな全部、ぎんメダルがもらえてよかったです。来年もがんばってほしいです。

山田 剛 士

でした。でも、新宮さんは、二位でたすきをわたしてくれました。差は、だいぶはなれていたけどぼくは、一位だ、という気持ちで走りました。第八中継所では、竹田さんにたすきをわたすのでがんばろうと思っていました。ラスト百メートルくらいで、同級生が応援してくれていたのによりいっそう力がわいてきました。先生も応援してくれました。南部では、優勝は、できなかつたけど、二位でした。総合でも二位でした。夢に見た表彰台へ上がれました。銀メダルでしたが、一生の思い出になりそうです。

す。あとは、区間一位になれたら最高です。でも、上宮津の平野君に一秒差で負けてしまいました。ですが、二位でよかったです。ラストで、もうすこしスピードをだしとけばよかったです。後悔しています。今年は、他の地区の選手の人たちとも仲良くできて、楽しい一日だったと思います。もしこれからこういうチャンスがあったら、練習量をふやしもっともっとがなばりたいと思います。



教育課程の改訂にあたり

由良小学校長 松本 正 師 正



二十一世紀がどのような時代であるかの確に予測することは出来ないが、現在進行している社会の変化が更に拡大し、加速化することは確実であるといわれている。科学技術の分野に限らず、私たちの生活のなかにも情報化の波が押し寄せ、急速な変化が予測される。

今回の教育課程改訂の最大のねらいは、急速に変化する社会に主体的に対応できる人間の育成と、生涯学習に資する学校教育の重視であると言われている。今、なぜこのことが必要なのか、その背景について考えてみると、社会の急激な変化が、子どもたちの生活や意識に大きく影響を及ぼしており、後を絶たない問題行動、生活する上で必

要な習慣や技術の未熟さ、自主性や自立の精神の欠如といった現象が全国的に引き起こされている。これは、子どもたちの社会の変化への不適応現象とも言えないことはない。こうした中で変化に流されず、自分が自分であり続けるために、これまで以上に主体的な能力の育成が、小学校教育の段階から要請されている。

また、体験不足から、物事に関心を持ったり意欲的に取り組む子供が減少し、判断力が失われ、ただただ変化に身をまかせ成りゆきまかせせる消極的な身の処し方が問題になっている。したがって、子供たちが、新しい変化の中で自分を見失わず賢明にしかも積極的に充実した

人生を築き上げて行くための、基礎的な資質・能力を培う役割を小学校が担うことになる。

由良幼稚園でも、新しい教育要領のもと平成二年・三年の二年間、府教研の研究指定園として「園児が教師と触れ合い、安定感を持って行動するようにするには、どのような環境が必要か。」として研究を積み重ねてきた。

幼児は、自分のことを温かく見守ってくれる人がいるという安心感から活動が広がっていく。

教師は、幼児と生活を共にする中で驚き・発見・工夫・感動など、幼児の心の動きを温かく受けとめ、認め、共感し心を通わせていく。また、一人一人の発達に応じた援助をしていくことで信頼関係を深めていく。

幼児は、同年齢の幼児と同じ場で過ごすことで満足し、次第に言葉を交わし合い、物のやりとりをするかかわりが見られるようになる。

また、自己主張のぶつかり合いによる感情体験や、遊びや仕事を通して共通体験をすることにより、友達関係を広げていく。この広がりの中で、相手の気持ちを理解し、共通のイメージを持って遊びを広げ、協力して遊びを発展させていくことができるのである。

物とのかかわりについては、物があるかないかではなくて、どのような働きをしているかが大切である。幼児の働きかけによって、物は多様に変化し、多様に見立てて遊びに広がっていく。このように、物とのかかわりは、幼児の興味と関心を引き出すものである。

小学校では、新しい学力観として、生活科がおかれ「児童が主体的に意欲を持って取り組み、自らの力で物事を達成し、自分の体と手を通して生きて働く能力や態度を培っていくことにある。」と言われている。

生活科では、スズメの学校で

なく、メダカの学校でありたいとされている。それは、①教える学力から、育てる学力への基軸の転換であり、②教師主導が子ども主導に、③教育内容（教材）中心が、学習活動（発見・追求・表現）中心に、④知識技能の伝達が、知的能力や特性の育成に重点化（探求心・判断力・表現力）され、⑤教授とその結果の重視から、学習とその過程重視へと、新しい視点が示され

地域での子供育成

栗田中学校教育友会副会長

升 田 栄 一



いよいよ今年も、数える程となり、日々寒さと共に、あたりの景色も、足早に冬に近付いて参りました。

此の時期となりますと、何かと気ぜわしく、気分的にも、つい落着きを欠いてしまいがちに

「自己教育力の育成及び基礎・基本理念の重視と個性を生かした教育」が来年度からの新しい教育課程の編成実施の基本理念とされている。

生活科の授業を通して、わが国の小学校教育は大きく変わろうとしている。本校でも、この新しい教育に向かって研究を重ね、教育内容の移行を進めながら来年度に備えている。

なってしまう。地区の皆様方におかれましては、益々御健勝のこととお慶び申し上げます。

常日頃、地区の皆様には、教育友会に、子供達の健全育成に對して何かと多大な御協力、御支

援を賜って居ります事に感謝致して居ります。今後共、変わらぬ御協力、御支援をお願い致します。

さて、ここ近年混迷をきたしておられます社会情勢、日々変化が著しい情報化社会の進む中、従来持ち合わせていた、人間性、人間味の希薄になりがちになっている事を、皆さんで考え改善を計り、親としても、大人としても成長をしなければならぬと思えます。

子供に教育、指導する前に、親である自分自身の向上に、まずは取り組み、私達一人一人学ぼうとする姿勢が、今後は大切な事に思えます。

何かと氣むずかしく、多感となる思春期の子を持つ親となり、最近又、小学校迄とは違う新たな問題にも直面しかけております。又色々な場所での話しの中で、考えさせられる事もあります。

その様な中、親同士の情報交

換、子供育成に、大先輩である地域の皆様への御指導が、大きな力となって行くのではないのでしょうか。地域の諸行事や、公民館活動などの取組みの中で、地域の皆様とふれ合う事によって心豊かな人間育成が出来るのではないのでしょうか。

それに、ここ近年は、生涯学習を重要視する様になり、文部省、地方自治体、各種団体の挙げられ、啓発されている事にも関心を示して行きたいものです。今後は、私達もおおいに参加をし、生涯学習の中に、新たな事が見い出せ、学校、家庭では学ぶ事が出来ない社会性、人間性、創造性を子供と共に身に付ける事が出来るのでは。

それが又、新たな明日への子供育成へとつながって行くのではないだろうか。

二十一世紀を目前に、世の中が急速な進歩をしている中、色々問題が内外共に、山積みされ、我々大人でさえ、明日を見

失いかけていると言っても過言ではないでしょう。

そんな中で、我々大人は学校、家庭、地域との連携を強め、それぞれ果たす役割を認識し、共に問題解決に取り組む姿勢を勉強し、子供達を取り巻く社会機構をより豊かにすると共に、愛情を持って見守ってやり、来る新しい時代を担う、たくましさ、人間性溢れる、人間味のある、豊かな心を持ち合わせた子

供達になる様、子供育成に努めようではありませんか。



老人は斯く戦えり

平間 克己

正月や冥土の旅の一里塚
目出度もあり目出度もなし
余命も僅か天命に添う年となりました。私達老人の一生を省りみると、前半は国を守る戦いであり、後半は、平和と家庭を守る戦いであった。

私達は父母の時代より、国民の三大義務(教育、納税、徴兵)を教えられ、日清日露の大戦に勝利を博し、国威宣揚の時代だった。若し東洋を侵す者あらば、東洋平和の大義のため、当然戦う義務ありと信じていた。

昭和六年満州事変が起った時、私達の年齢の者は現役兵だった。王道楽土の満州国をつくり、軍閥に苦しむ、住民を助けるため暴支膺懲の名のもとに、忽ち北支を攻め、中支南支を席卷した。日本の東洋平和を願う意図を阻む米英とついに戦端を開き、「鬼畜米英」「一億一心」のスローガンの下に、ハワイ真珠湾攻撃し、北はアリユシヤン、南は佛印、英領印度に至る、長い戦線となった。従って現役兵は勿論、予備後備幼年兵迄参戦した。

「第一線の兵士も銃後の国民も、善戦したが、戦い利あらず本土爆撃され、ついに広島長崎へ原爆投下、敗戦となり復員する。今後の日本はどうなるのか、途方にくれるばかりだった。

駅頭は出征兵士の見送りで、在郷軍人会、国防婦人会、小学生、出征軍人の家族、親類縁者で賑やかであった。「今日よりは省りみなくて大君の醜の御盾と出で立つ吾は」勝たずんば生きては帰らじと、決意を述べ勇躍戦地へ向った。

又銃後の女の戦いも、第一線の兵士に劣らぬ戦いであった。銃後国民の精神は、「後顧の憂い無からしむにあり」「第一戦の兵士に心配かければ戦意が鈍り、敗け戦となる」敵しい命令で、食糧増産、兵器製作、竹槍訓練、出征兵士の見送り、帰還傷病兵の見舞い、燈火管制の協力等、多忙の中で、よく勤めを果し頑張ってくれました。又その間、夫や息子の戦死の公報を受けながら、銃後の務を果たされた事もあつたらうに。

「玉ねぎ生活」になった。即ち一皮むくたび、涙が出る。又或る裁判官が闇屋を取り調べる立

場にあり「私は闇米は食べません」と言ったが栄養失調で死んだニュース。又東北の農村の一青年が、東京に嫁にいらっている姉に米を頼まれ、上野駅に着いた途端、警官に誰何され、驚いて逃げ射ち殺される悲劇等あった。

極東軍事裁判では、A級戦犯の処刑等、暗いニュースばかりだった。

昭和三十四年に至り、皇太子殿下と美智子様のお成婚式が行われた頃から、明るいニュースが出始めた。然し御成婚式当時は、テレビは百軒に一台の割で、私達も宮本の公民館へテレビを見に行った。以来日本全国にテレビの普及率が上ったとの事。次は、東京より新幹線が走り、東京オリンピック等と経済的にも上向きになって来た。

一方復員して来た当時の農業事情は、未だ耕運機もなく、天秤棒で肥料等運ぶ重労働の毎日だった。それでも何事も辛抱と

諦め頑張るより仕方がなかった。

又帆船を所有している農家は重労働の連続だった。主に由良川の砂利、浜の砂等コンクリートの粗骨材として使われた。注文があれば、納入日の前日に由良川の堀削場所に船を廻し、納入所迄船を回航し、当時未だベルトコンベアーが無く、天秤棒で皿籠に入れた砂利、砂を運ぶ状態で苦勞が多かった。

然も最近では、戦争中から大量に堀削し積みこんだため砂利の量がなくなり、廃業の止むなきに至ったと聞くと、ポンポンとエンジンの音を出しながら、出港して行く帆船の姿が見られないのは、由良の風物詩が消えた事になり、寂しさ一入です。

私達老人の辿って来た道を振り返って見れば戦争、復員、終戦の混乱期。農業を守る農政による減反政策、豊作貧乏に悩みながら、老人は三ちゃん農業に従事。終戦混乱期より四十年間働いてきました。そのため

家族の人達には、老人はむづかしい人間に見えた事であろう。我が家の繁栄のための直言も良く思われない事もあったであろう。

「憎くうては 打たぬものなり

竹の雪」

竹の葉に溜る雪の重みに耐えかねて、折れる事があるので、持ち主は竹を叩いて雪を落とす。竹は真っ直ぐに立ち直る。その際叩いたため落ちた雪を身に受けながら、真っ直ぐに成長を願うためだが、見ようによればの句である。

又正月の雑煮を祝う箸は雨端が細く真ん中が太い形である。

親辛ど(片方端の細い処)

子楽く(真ん中の太い処)

孫乞食(反対側の細い処)

親が苦勞して造った豊かになった財産を、子が親の苦勞を忘れて贅沢に使い、孫が贅沢を受け継ぎ、ついには家が破滅する。家庭の栄枯盛衰を形で表わしたのです。この事も申し上げ わが

家の幸せ 繁栄を祈ります。

私達老人は、戦争という大博打をうって、大敗しましたが、四十数年間、平和憲法を守り、生活を守ってきました。今では世界一の経済大国になりました。それは戦争という殺人と消耗をしなかったからです。

これからの日本は、平和に徹し、アフリカ等、戦禍に苦しみ、食糧がなく、栄養失調で苦しむ子供達に食糧を送る。医薬品がなく、病気に苦しんでいる人達に、薬を送り、愛の手をさし延べる事が大切と思います。

私達老人も、体力の限界で衰え老の坂を下りつゝの状態です。あとは、余生を静かに暮らしたいと思ひます。

幾山河越えさり行かは

寂しさの はてなむ国ぞ

今日も旅ゆく(若山牧水)

由良の戸を 中西夏江

健康いろはカルタ 19

小倉百人一首「由良の戸を渡る舟人梶を絶えゆくへも
知らぬ恋の道かな」は世人のよく識る名歌にて

由良の戸を渡る舟人梶を絶え わが宇宙に夕月のぼる

ちちははの大和ごろにはぐくまれ丹後由良の戸恋うたを知る

由良の戸のかるた取札もすりんの袂に入れて跳ねし女童

百人一首に詠まれた地名は「丹後の由良」か「紀淡の由良」か等の異説あれば

大切の由良は丹後か紀の国かここごろの論説やある

由良の戸の詠み人遠しゆらゆらと異説の由良の風景二つ

十世紀に由良の戸を詠みし丹後掾曾根好忠天渡り来よ

茫々と恋いわたるかな藍ふかきこの由良の戸の遠世恋うた

千年の名歌を河口に蔵うゆえうまれぐに由良は日にもおうなり

白日に熱る水上バイクゆきわが想い人の好忠離る

虚実揺らぎころぞ青き冬の日を鳥たちゆけり由良の戸のうえ

え 笑顔たやさぬ幸せ者

長寿者に長生きの秘訣を尋ねると、第一が食事の節制、第二が毎日の生活を楽天的にとという答が多い。同じ一生、済んだ失敗をいくら後悔しても何の役にも立たない。開き直って心機一転、新しい気持で出直す図太さが欲しい。それでこそ打開の道も開ける。それには相手の立場に立って物事を客観的に判断する冷静さが要だ。

て テレビは目の毒 脚の毒

茶の間に居ながら世界の情勢を目のあたり観ることの出来るテレビは、現代の我々の生活には欠かせない。民放各社は何とか子供から老人まで、テレビの前に坐らせようと一生懸命だ。テレビを楽しむのは大変結構だ

四方 寿朗

が、必然的に運動不足となる。動脈硬化、心筋梗塞、糖尿病等の成人病が増えた最大の原因は、飽食と運動不足である。自分の体は自分で守らねばならぬ。成人病の予防は薬より先ず毎日の食事と運動のバランスだ。

あ 明日はよい事きつとある

昔の自慢話ばかりし出したら、その人の老化は相当進んでいる。過去の栄光にすがってばかり生きていく人間程みにくい者はない。子供は昔話をしない。今度の夏休みには何メートル泳ぐようになりたい等と、将来に希望を持っているからこそ、目が輝いて見える。大人も何か新しい目標を探して挑戦しよう。それでこそ過去の経験も生きている。人間死ぬまで現役でいたい。

「大正琴の集い」を終えて

北野 幸子

大正琴の音色に魅せられて、琴修会由良教室の仲間入りをさせて頂いて一年数ヶ月が経ちました。港区川崎様のご厚意で快適な場所をお借りして、月二回田井先生の御指導のもと、九名揃って皆勤賞ながらに練習を続けてきました。

琴を美しく弾くコツは、正しい姿勢と手首の使い方にある。と耳にタコの出来るほど言われても、思うように動かないもどかしさを徐々に克服して、合奏することの喜びをみんなでかみしめ合うまでになりました。

過日十月二十七日市民文化祭の一環として、「琴修会丹後支部大正琴の集い」が宮津会館大ホールで開催されました。八十余名の会員が一堂に会し、日頃

の練習の成果を披露する場となりました。私達は半年も前からこの演奏会に向けて、発表曲の「浜千鳥」「船頭小唄」「十三夜」フィナーレ曲の「赤とんぼ」「旅愁」をくり返し練習してきました。

演奏会の雰囲気は外観的にはつかんでいても、演奏者として舞台に立つのは初めてであり、緊張のあまり胸の痛む思いでしたが、余興として、老友会総会、如意寺様春の大祭、敬老会にと未熟ながら私達に発表の場を与えて頂きましたことが、大きな力となり、支えとなって、初舞台に挑戦することができて、感謝しています。

Sさんにはお孫さんからおぼあちゃんの初舞台祝として、花

束が届けられ嬉しいやら照れるやら、みんなにもKさんのお孫さんから真紅のバラを頂き、まるでスター気取り。心なごむ一時でもありました。

いよいよオーブニング曲「踊るポンポコリン」の軽快なリズムにのって、開幕となりました。経験年数の浅い順にプログラムが組まれていて九グループのうち一番は岩滝教室のグループで、由良は二番目でした。岩滝グループの初舞台とは思えない自信満々の演奏を、舞台の袖で聞きながら、出番を待つ間の緊張感は何とも言えないものでした。

「落ち着いていこうで！」リーダー格のFさんの気合いが伝わってくる。「たとえ一音二音間違えても、かえって美しい和音が生まれることもあり、憶することなく、堂々と弾き続けることが、聞く人に安心感を与えるもの」との田井先生の忠言が過る。リハーサルでうまくいったから本番も大丈夫と、気を取り直し、

無心に三曲弾き終わりました。拍手が聞こえてようやく、みんなよく頑張ったと感激も一入でした。「よう揃ってきれいやった。安心して聞けたわ」と嬉しいご批評を頂き、大正琴をはじめ良かったと思いを新たに致しました。

後になりましたが、由良からも大勢の人達が駆け付けて下さり、温かいご声援を頂きました。事心よりお礼申し上げます。有難うございました。

①音楽を中心に豊かな生活を提供する。

②音楽性を重要視する。

③地域文化の向上に参加する。

琴修会の三理念に基づき、案しく精進したいものと思えます。



年末の犯罪と事故の防止

由良駐在所 半 林 富士夫

一、はじめに

年末年始は、空き巣ねらいやスリの「稼ぎどき」です。

特に、一年の締めくくりである一二月は、正月準備などで慌ただしいときです。家を留守にすることも、お金を持ち歩くことも多くなります。そんな気ぜわしいときの、ちょっとした心のスキを、ドロボウはねらっているのです。

二、外出前、おやすみ前には、カギをかけ忘れないように：今年三件の、空き巣ねらいの被害が発生し、そのうち二件が、カギのかけ忘れから起こっています。

四、年末年始の交通事故防止

例年のことですが車の量人の流れが多くなります。☆先を急ぐあまりスピードを出し過ぎる……。

☆忘年会などでお酒を飲む機会が多くなる……。などから、速度超過、信号無視、飲酒運転などによる事故が増えることが考えられます。

・ドライバーの皆さん、くれぐれもスピードは控えめに、ゆとりをもって、安全運転に心がけて下さい。

また、飲酒運転は絶対にやめて下さい。・歩行者の皆さん、国道を横断中の事故が多発しています。

ます。

盗難予防と被害の早期回復のために、自転車には、鍵をかけ、車体番号を保管し、防犯登録をしておきましょう。

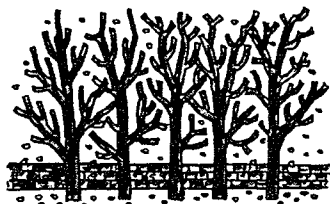
五、おわりに

今年も、残すところ少なくなりました。

由良地区のみなさんには何かと御協力を賜り大変感謝しております。

さて、みなさんも御存じかと思いますが、駐在所が移転することとなり、由良ノ里センターの横に新築中です。

今後ともよろしくおねがいします。



由良―歴史と文化財―(二) 山椒太夫伝説の周辺 その一〇

私が最初に、山椒太夫の話に出会ったのは小学生の頃のことでした。和綴じの、古い小冊子が我が家にあったのです。この冊子には、例えば、石童丸の出てくる葎萱同心の話など四篇の物語が載っていました。今、思えば、説経節の代表的作品である「四説経」とよばれるものを集めたもので、昭和初年には、私の家にあった位ですから、宮津でも、殆どの家にはあったものと思われまます。

粗末な、木版刷りのものでしたが、挿絵が入れられていました。例えば、「葎萱」の場合であれば、悪心を抱いている人物などが出ているとすると、その人物の頭の上には、無気味な舌をチロチロさせた蛇が画かれて

おり、この人物は、終に佛の加護を受けることはないというところがよくわかるようにされ、最後に佛の加護をうける人が、悲惨な境涯から救われるという、極めて佛教説話的なものでした。こうした冊子で読んだのが、山椒太夫の話に接した最初でした。

その後、由良に住むようになってから、少しは山椒太夫の伝説に興味はもつようになりました。処が、長女が小学生のときのことですが、由良の民話・伝説のことを調べるといふ宿題を持って帰ってききました。私は、由良に生れ育ったものでありませんから、由良のことと言えれば山椒太夫の事くらいしか知りませんでした。その山椒太夫と言って、それは佛教説話として意図

的に語られてきたものであり、人形浄瑠璃として演じられていた間に、全くの芸能作品に仕上がっていました。そのような形では私達の前に存在していないのです。それを、真実、本来、存在した山椒太夫伝説と考えるのは誤りでないかというのが私の考え方でした。酷薄非道の人物として語られてきた山椒太夫の裏にある人物の本当の姿というものをも明らかにする方法はないのか。そういうことも何時か考えてみたいと思っていました。



それで、長女には、舟を使って交易を行なった人物というヒントだけ与えてやったのです。

由良海岸に、森鷗外文学碑を建てる運動を手伝わせてもらった時にも、この運動を契機として、山椒太夫伝説を考えること、山椒太夫について調査・研究をすることを、この運動の一つの柱にしたいというのが私の希望でした。一人でなく、何人かの力で、そんなことを考えていたのです。

その後、時には、学生の人で卒業論文に山椒太夫を扱おうとする人、修学旅行のテーマに民話・伝説を取り上げる人びと、各地の歴史や文学同好の人びとが由良をたずねて来るのに出会います。中には、由良に来たが、山椒太夫のことを聞けずに帰った人もあったようです。有名な山椒太夫伝説の地元である由良に行けば、誰でもよく知っていると思うのです。そういう雰囲気をつたえず来て来る人もあるので

す。しかも、そういう人達の多くは、少なくとも、森鷗外の「山椒太夫」くらいは読んでおり、或る程度の知識をもって来ているのです。そういう人達と

少しでも話し合える知識はもってほしいものです。由良へ行けば山椒太夫のことは聞けると思っている人に、由良には行ったが何も聞けなかったと残念がらせて帰ってしまったとどんなものでしょう。勿論、山椒太夫が、酷薄非道な説経浄瑠璃に語られるような人物だと思つと、大きな声で話もできないでしょう。若し、そうでない人物が由良にあれば、そんな話を中心に人物像を変えることが大切でしょう。例えば、石浦の人は、住吉さんは山椒太夫が創建したと言

的、芸能的な付着物を剥ぎとつて、由良の千軒長者でもあった山椒太夫の姿を少しづつでもハッキリさせたいものです。

昭和二十年代のことであったかどうかはハッキリしませんが、当時、由良に居た人が、「山椒太夫は根拠のない全くのつくりものだ」と言ったことか、言わなかったとか、聞いたことがあります。その人は、相当な歴史的教養をもった人であったようですが、伝説は伝説、史実は史実と区分してしまつた上で考えようとした処に誤りがあつたのだと思います。伝説の意味、伝説の仕上がりで行つた過程も知るべきだというのが私の立場です。

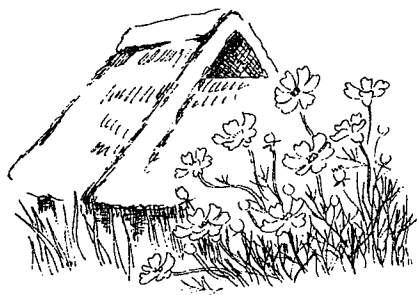
こういう性質を充分に知つた上で伝説というものを考えていきたいものだと思つています。

山椒太夫伝説が成立したのは中世―鎌倉時代から室町時代にかけてのことであろうと思つていますから、其処で必要になるのは当時の精神と知識―思考方法というものを知つて、その思考で解釈を進めていくことです。現在の精神や思考方法だけで、中世の伝説をときほぐすことはできないと考えていますし、そんな立場で勉強したいものです。歴史の研究は、史料さえそろえば、それで出来上つたと言えます。それだけ史料のもつ意味は大きいものがあります。「史料なきところに史実なし」とさえ言われます。しかも、伝説には殆ど史料がないのが通例で、一層、その解釈が大変なことになります。其処で、私は、その土地で、伝説と同じように伝えられ、その土地で生きていく民俗―土地の人びとの暮しの中に

伝承された習俗や伝統行事における知識を重視することに着目した訳であります。そんな事でこれからも色々教えてほしいと願つています。

これまで「由良の歴史と文化財」シリーズに紙面を割いて頂きましてありがとうございます。一旦、私の勉強のため中断しますが、あらためて再筆させていただきます。長らく、ありがとうございます。ございました。

(平三・十一・九 小谷)



川柳

宮津番傘川柳会

老いた母昔の知識聞いてやる
孫の服着せてまごつく裏表

磯田 栄

父と子の接点風呂の湯があふれ
残照に一期一会の旅かぼん

大森 美智子

どん底で拝む十指に嘘はない
みちのりに心の電球とり替える

田村 キヌエ

背伸びする脚から崩れいく虚像
割り箸に姿を変えた森の精

飯沢 鳴窓



編集後記

公民館だよりに「由良の歴史と文化財」について、四年余りの長きにわたり執筆いただいております小谷一郎氏のシリーズが今号をもって一応終ることになりました。

前半の由良の文化財と後半の山椒太夫伝説の周辺とに分けての、氏の造詣深い研究的なタッチで描かれた貴重な論旨には、深い敬意を表すると同時に、毎号に格調高い華を添えて下さいましたことを感謝致します。

今後も郷土史につきまして、更に研鑽を重ねられることと存じますが、私達の郷土の伝説や歴史的遺産を更に解明し、守っていく為の学習の資料としてもシリーズで是非ご寄稿下さるよう、紙面を借りてお願い致します。

(小室記)